

## 第509回番組審議会報告

開催日 : 令和4年7月27日(水)  
場所 : 山形グランドホテル  
出席委員 : 柳谷豊彦 委員長/相馬佳苗 副委員長/中川愛美 委員/堀内史子 委員  
鈴木雅史 委員/水山和敬 委員/中村出 委員/齋藤義紀 委員

議事内容 : ◎社側報告

1. 挨拶 横沢代表取締役社長

◎審議事項

1. 番組・視聴率・制作関連 黒須 取締役編成制作局長兼番組審議会事務局長
2. 報道関連 後藤 取締役報道局長
3. 意見集約

◇ 第91回系列番組審議会委員代表者会議の議題

「動画配信時代 地上波テレビに望むこと」

◎その他

内容 :

山形テレビの第509回番組審議会が開かれ、第91回系列番組審議会委員代表者会議の議題「動画配信時代 地上波テレビに望むこと」について意見交換しました。

出席した委員からは、

「災害、大きな事件事故等の際の信頼性、正確で整理された情報はテレビならではの。また映像や音声、文字といったプロの技術がしっかりある。ここを守るべき」

「テレビ番組は作り手側からの主張が強く、どう見られるのか抜けやすいと感じる。届ける人、届ける時間など見る側に立って作っていくべき」

「地方の地上波テレビが信頼され続け、選ばれ続けるためには、地域の伝統文化の伝承、新しい文化の発展に寄与するなど、地域社会への貢献が地方テレビ局の使命と感じる。」

「地上波テレビは生活の時間軸となっている。朝、晩の天気、ニュースといった情報収集、バラエティなどの息抜きの時間。YouTubeなどは好きな時に好きなものをみるため時間軸は感じられない」

「テレビを取り巻く環境の変化への対応としてテレビ局自身も変わろうとしている。社独自の色を忘れず、一歩踏み出していくべき」

「先取性、先取りの精神で新しいものに取り組み変化を求めていかなければ 環境の変化についていけなくなってしまう」

「映画がどうやって生き残って来たかが一つのヒントになると思う。動画配信等による個人化が進む中で、良質な番組をすることでテレビの普遍的な価値、役割、期待に一層磨きをかけることが大事」

以上